

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	芝浦工業大学
設置者名	学校法人芝浦工業大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間 通信制 の場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数				省 令 で 定 め る 基 準 単 位 数	配 置 困 難	
			全 学 共 通 科 目	学 部 等 共 通 科 目	専 門 科 目	合 計			
工学部	機械工学課程	基礎機械コース ／機械工学科	-	0	132	82	214	13	
		先進機械コース ／機械機能工学科	-	0	132	51	183	13	
	物質化学課程	環境・物質工学コース ／材料工学科	-	0	132	82	214	13	
		化学・生命工学コース ／応用化学科	-	0	132	30	162	13	
	電気電子工学課程	電気・ロボット工学コース ／電気工学科	-	0	132	57	189	13	
		先端電子工学コース ／電子工学科	-	0	132	52	184	13	
	情報・通信工学課程	情報通信コース ／情報通信工学科	-	0	132	60	192	13	
		情報工学コース ／情報工学科	-	0	132	71	203	13	
	土木工学科	都市・環境コース ／土木工学科	-	0	132	100	232	13	
	先進国際課程		-	0	132	20	152	13	
システム 理工学部	電子情報システム学科	-	12	46	28	86	13		
	機械制御システム学科	-	12	46	52	110	13		
	環境システム学科	-	12	46	98	156	13		
	生命科学科	-	12	46	37	95	13		
	数理科学科	-	12	46	12	70	13		
デザイン 工学部	デザイン工学科	-	0	25	16	41	13		
建築学部	建築学科	-	0	28	196	224	13		
(備考)									

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

下記 URL 「シラバス検索システム」より、任意の学部を選択後、ページ上部の「実務経験のある教員等による授業科目」をクリック。

<http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	芝浦工業大学
設置者名	学校法人 芝浦工業大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.shibaura-it.ac.jp/about/educational_foundation/summary/directors.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	前職：事業法人代表取締役	2025年5月29日～2029年6月定時評議員会の終結の時まで	理事長
常勤	現職：経営コンサルタント業代表取締役	2025年5月29日～2029年6月定時評議員会の終結の時まで	入試・広報・高大接続担当
非常勤	現職：設備設計会社代表取締役	2025年5月29日～2029年6月定時評議員会の終結の時まで	校友会後援会担当、募金担当
非常勤	現職：設計会社 理事	2025年5月29日～2029年6月定時評議員会の終結の時まで	グローバル推進担当、BCP担当
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	芝浦工業大学
設置者名	学校法人芝浦工業大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>全授業科目において、授業科目の授業概要・目的・達成目標・授業計画・授業時間外課題・評価方法と基準を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表している。</p> <p>シラバスを作成する際には、全授業科目担当教員向けに、シラバスの役割、作成時のポイント、大学設置基準に基づくシラバス項目の解説を掲載した「シラバスガイド」を配付している。全授業科目担当教員はこの「シラバスガイド」に記載された基準に基づき、各自で作成している。</p> <p>シラバス作成後は、専門学科および基礎・教養科目において、全学統一のシラバスチェックリストに基づき、全授業科目について第三者チェックを実施している。</p> <p>シラバスガイド URL http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/docs/syllabusguide.pdf</p>	
授業計画書の公表方法	http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<p>「学修の成果に係る評価及び卒業の認定にあたっては、客観性及び厳格性を保持するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに当該基準に従って適切に行うものとする。」と学則に定め、具体的な成績評価の方法、基準をシラバスに明示し、その基準どおりに学修成果の評価を行い、単位の授与を行っている。</p> <p>履修及び授業科目修了認定にあたっては、本学所定の授業科目に対する課程を修了し、正規の試験等に合格した学生には、その授業科目所定の単位を与える。</p> <p>各授業科目の 1 単位は 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学習等を考慮して、単位数を計算すると定め、適正に実施している。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>客観的な評価指標としてG P A制度を導入している。G P A値は半期値と累積値を算出し、学生自身による学修到達度の自己点検と教員による学修指導の双方で使用している。また、G P A値に基づき、学業不振者対応を実施しており、システム理工学部においては3年次進級条件としてG P A値(1.2以上)を設定し、工学部、デザイン工学部ならびに建築学部においては卒業要件としてG P A値(2.0以上)を設定している。</p> <p>学生個人のG P A値は成績通知書および学修ポートフォリオに掲載し、各授業科目においてG P (Grade Point) による成績分布状況をシラバスで公開している。</p> <p>G P A値は、以下の方法にて算出している。</p> <p>① 成績評価の表示方法: S (90~100), A (80~89), B (70~79), C=(60~69), D (50~59), F(0~49)</p> <p>②G P (Grade Point) の設定 S, A=4, B=3, C=2, D=1, F=0</p> <p>② G P Aの算出式 $GPA = \frac{4 \times (S, A \text{ 取得単位数}) + 3 \times (B \text{ 取得単位数}) + 2 \times (C \text{ 取得単位数}) + 1 \times (D \text{ 取得単位数})}{\text{総履修登録単位数}}$ </p> <p>なお、小数点以下第2位は四捨五入する</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.shibaura-it.ac.jp/extra/tebiki2025/engineering/15000.html
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業の認定方針について以下のとおり学則に定め公表している。</p> <p>第3節 卒業及び学位の授与 (卒業認定)</p> <p>第21条 別表7(各学科の卒業要件表)に定める所定の単位を取得した者につき、教授会の議を経て学長が認定する。</p> <p>2 卒業の要件として修得すべき単位のうち、第16条の3第2項(2本学学生は前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修することができる。)の授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。</p> <p>(学位)</p> <p>第22条 本学を卒業した者には別表9(学科別学位)に定める学位を授与する。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.shibaura-it.ac.jp/campus_life/class/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	芝浦工業大学
設置者名	学校法人芝浦工業大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.shibaura-it.ac.jp/about/educational_foundation/finance/data.html
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告(書)	同上

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:2025年度 学校法人芝浦工業大学 事業計画 対象年度:2025)
公表方法: https://www.shibaura-it.ac.jp/about/educational_foundation/finance/data.html
中長期計画(名称:Centennial SIT Action 対象年度:2016-2027)
公表方法: https://www.shibaura-it.ac.jp/about/summary/centennial_sit_action.html

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.shibaura-it.ac.jp/about/education/evaluation/inspection.html
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.shibaura-it.ac.jp/about/education/evaluation/
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 工学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/engineering/)</p> <p>(概要) 工学部では、現代社会が抱える様々な課題を自ら発見、解決する工学技術者を養成するため、確かな基礎学力に基づく各専門分野の高い専門能力に加え、工学部内の多彩な専門分野を横断的に学べる新たな教育プログラムにより学際的な思考能力を涵養します。さらに、修得した分野横断的知識に加え、研究を軸とした実践型教育により課題解決能力を高め、様々な課題の本質を捉え、学際的アプローチにより解決する能力を涵養し、持続可能な社会の発展に、多様な価値観と高い倫理観をもって貢献する創造性豊かな人材を養成します。具体的には、卒業までに以下に挙げる能力を持った人材を養成することを教育研究上の目的とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工学専門教育の修得に必要な基礎学力・教養を身に付けている。(豊かな教養を涵養する学修) ・工学の専門知識と論理的思考法を体系的に学び、身に付けている。(工学知識の体系的学修) ・複数分野の知識を修得し、学際的な思考能力を身に付けている。(分野横断的知識の修得) ・研究を通じ、課題を発見・解決し、未踏分野に挑戦できる力を身に付けている。(創造性の育成) ・社会の要求、多様な価値観を理解し、他者と協働して主体的に行動できる能力を身に付けている。(他者との共生)
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/engineering/)</p> <p>(概要) 工学部は、確かな基礎学力に基づく高い専門能力を備え、社会が抱えるさまざまな課題を発見・解決することで、持続可能な社会の発展に貢献する創造性豊かな人材を育成します。そして以下の能力を身に付けて卒業要件を満たした者に、学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな人格形成の基本と基礎的な学力を備え、課題を自ら発見し、関係する人々と意思疎通を図りながら協働できる。 2. 工学の本質の体系的な理解に加え、分野横断的な知識による多様な手法によって課題の核心に迫り、その解決方法を導き出せる。 3. 工学技術者教育や研究を軸とした実践型教育を通じ、社会の多様性を認識して高い倫理観を持った理工系人材として行動できる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/engineering/)</p> <p>(概要) 工学部ではディプロマ・ポリシーに掲げる能力を身に付けるため、以下の教育課程の編成、教育内容・方法および学修成果の評価に基づいた教育を実施します。</p> <p>教育課程の編成 教育課程を「基礎・教養科目」と「専門科目」に区分し、工学を体系的に学修できるように科目を以下のように配置する。</p> <p>「基礎・教養科目」は、「数理基礎科目」「英語科目」「情報科目」「人文社会系教養科目」「体育健康科目」「工学部共通教養科目」の細区分で構成した科目を配置する。また「専門科目」は、「工学部共通専門科目」「自コース専門科目」「他コース専門科目」の細区分</p>

<p>で構成した科目を配置する。</p> <p>教育内容・方法の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術者として必要な基礎能力を得るため、各科目で質の高い授業を展開する。 ・「数理基礎科目」「英語科目」「情報科目」「人文社会系教養科目」により、工学の専門教育の修得に必要な基礎学力・教養・倫理観を涵養する。「体育健康科目」「工学部共通教養科目」により社会の要求、多様な価値観を理解し、他者と協働して主体的に行動できる能力を育成する。 ・「専門科目」では工学の専門知識と論理的思考法を体系的に学び、身に付ける。また未踏分野に挑戦し、社会における課題を自ら発見、社会の多様性を認識しながら他者と協働して解決できる創造性豊かな技術者を養成するため、研究を軸とした実践型教育を実施する。 ・複数分野の知識を修得した学際的な思考能力を養成するため、技術者に必要な分野横断的知識を学修する。 <p>具体的には、所属するコースの専門科目に加えて所属するコース以外の専門科目履修も可能とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムツリーを示し、学修・教育到達目標に応じた科目履修の理解を促す。 <p>学修成果の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位制を採用し、学修成果を総合的に評価する。 ・各コースに設定した学修・教育到達目標、各授業科目の達成目標に対して、学修成果が一定のレベルに達した際に単位を付与する。 ・所属するコース以外からの専門科目を履修し、所定の条件を満たした場合に副コース認定を行う。
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/engineering/)</p> <p>(概要)</p> <p>工学部では知識偏重教育ではなく、実践型教育による課題解決型人材の輩出に力点を置いた教育を行なっています。そのため、本学の建学の精神と工学部の教育方針、各コースのカリキュラム、教育・研究の内容をよく理解した、以下のような学生を求めます。</p> <p>(工学部が求める人物像)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工学部での学修・研究を強く志望し、関連する教育分野における基礎学力を身に付けた人 ・工学各分野における技術と、その基礎・応用に興味がある人 ・実際に対象に触れ、実践的に学修・研究することに価値を見出す人 ・国際的な視野を持って社会の課題解決に主体的に取り組み、人類や社会の持続的発展に貢献しようという意志を持つ人
<p>学部等名 システム理工学部</p> <p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：https://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/systems/)</p> <p>(概要)</p> <p>システム理工学部は、幅広い教養、国際性および理工学に対する体系的な知識を身につけ、総合的問題解決のためのシステム工学の思考と手法を活用して持続可能な社会の構築に貢献できる人材を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/systems/)</p>

(概要)

システム理工学部は、理工学の基礎知識と幅広い専門分野の知識に加え、学問体系を横断し関連づけるシステム工学の手法、すなわち総合的解決策を追求する「システム思考」、目標達成の機能を作る「システム手法」、および問題解決の人・知識・技術を統合する「システムマネジメント」を修得し、地域と人類社会の発展に貢献する高い倫理観を持ち、卒業要件を満たしたものに学位を授与します。

1. 地球的観点から多面的に物事を考える幅広い教養を備え、他分野・異文化と相互理解・交流し、社会や世界の問題解決に取り組み、高い倫理観を持った理工系人材として行動できる。
2. 科学技術の知識を修得するとともに、これを総合して問題解決するまでの行動計画を推進するためのシステム思考を修得し、問題を発見し、総合的解決策を導き出すことができる。
3. 社会の問題解決に必要なシステム工学の理論とその運用能力を備え、人・知識・技術をマネジメントし、関係する人々とのコミュニケーションを図りながらチームで仕事ができる。
4. 専門的知識とその運用能力を備え、問題解決に必要な知識・スキルを認識し、不足分を自己学修し、問題を解決できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/systems/>)

(概要)

システム理工学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、学問体系を横断し関連づけるシステム工学の手法と、専門的知識を深めるための学科専門教育を体系的に学修・研究するための手法により、教育プログラムを実施しています。この教育プログラムは、全学共通科目、共通科目、専門科目の講義、演習、実験、実習で構成されています。学部理念の核となる共通科目のシステム工学教育では、学生の主体的・能動的な学修を促すために、プロジェクトを通じた演習と講義の組み合わせにより実践と経験を繰り返して学修していくカリキュラムを編成しています。カリキュラムは、次の科目群で編成され、その学修成果を多面的に評価し、学生の振り返りを促すことで学修・教育到達目標を達成します。

1. 全学共通科目 建学の精神に則り教養を養う
2. 共通科目 システム理工学部生として共通に有すべき基礎力の育成
 - 2 - 1 教職科目 教育職に関する専門的知識と技能、実践的指導力を修得し、豊かな人間性を養う
 - 2 - 2 総合科目 幅広い教養と他分野・異文化の理解力を修得
 - 2 - 3 基礎科目 理工系人材の基盤となる数学、物理、化学、生物学の修得
 - 2 - 4 システム・情報科目 社会の問題解決に必要な情報リテラシーとシステム工学理論を修め、グループワークによる解決力を養成
3. 専門科目 専門的知識を深める
 - 3 - 1 学科専門科目 学科特有の専門的知識を深める
 - 3 - 2 総合研究 各自が設定したテーマを解明、解決策を導く

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/systems/>)

(概要)

システム理工学部は、分野横断教育を特徴としています。本学部への入学を志望する受験生は、大学が求める人物像に加え、以下に挙げる「求める人物像」及び本学部の教育方針、学科のカリキュラム、教育・研究の内容をよく理解して出願することが望まれます。(システム理工学部が求める人物像)

1. 身の回りにあるさまざまな「もの」や「こと」の仕組みや成り立ちに関心を持ち、それ

<p>について深く考え、問題点を解明することに興味を持っている人。</p> <p>2. 他学科の学生とチームを組んで課題に取り組むなど、システム理工学部における学科の枠を超えた演習科目に興味を持ち、主体的であり積極的に学修することに強い意欲を持っている人。</p> <p>3. システムを構成する要素のつながりを重視した付加価値のある「ものづくり」や「新たな枠組みづくり」に携わることを通じて社会に貢献する意志を持っている人。</p> <p>上記に賛同し、本学部への入学を志望する人は、高等学校等において芝浦工業大学アドミッション・ポリシーに定める(1)～(3)の能力を身につけておくことが望まれます。</p>

学部等名 デザイン工学部
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：https://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/design/)</p>
<p>(概要)</p> <p>デザイン工学部は、より良い社会を追求するために、現実の課題発見と解決のみならず、未知の課題を想像し、新たなアイデアを提案できるデザイン工学技術者を養成します。そのために、教育プログラムを通じて、デザイン思考・デジタル技術・協創の3つの能力を育成します。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/design/)</p>
<p>(概要)</p> <p>デザイン工学部は、現実の課題発見と解決のみならず、未知の課題を想像し、新たなアイデアを提案することで、より良い社会を追求できる人材の育成に取り組みます。そして、以下の能力を身に付けて卒業要件を満たした者に、学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門教育の修得に必要な基礎学力・教養力 2. 常識に囚われず疑問を持ち、利用者の視点から課題を想像できるデザイン思考力 3. 社会実装を念頭にアイデアを提案し、具現化できるデザイン工学の専門知識とデジタル技術力 4. 多様な意見を積極的に収集し、高い倫理観を持って課題解決に向けて他者と協働できる協創力
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/design/)</p>
<p>(概要)</p> <p>デザイン工学部は、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を身に付けるため、以下の教育課程の編成、教育内容・方法と学修成果の評価に基づいた教育を実施します。</p> <p>教育課程の編成</p> <p>デザイン工学を体系的に学修できるよう、教育課程を「共通科目」「専門科目」「プロジェクト科目」に区分し、科目を以下のように配置します。</p> <p>共通科目は、「教養科目」「英語科目」「人間中心科目」「産業・社会科目」「データ・サイエンス科目」「リサーチ科目」の細区分で構成します。専門科目は、「デザイン科目」「生産工学科目」「ソフトウェア科目」「知能・制御科目」の細区分で構成します。</p> <p>教育内容・方法の実施</p> <p>全体</p> <ul style="list-style-type: none"> • デジタル技術力と協創力を育成するため、いずれの区分においても演習または研究

を軸とした実践型教育を実施します。

- カリキュラムツリーを示し、学修・教育到達目標に応じた科目履修の理解を促します。

共通科目

- 常識に囚われず疑問を持ち、利用者の視点から課題を想像するデザイン思考力を育成します。
- 教養科目、英語科目、産業・社会科目：多様性を理解し、社会の様相や動向を踏まえた上で、多面的に物事を勘案するための教養・倫理観を育成します。
- 人間中心科目：利用者の視点から物事を勘案する能力を育成します。
- データ・サイエンス科目：デジタル技術を中心とする、工学と情報処理の専門知識修得に必要な基礎学力を育成します。
- リサーチ科目：複眼的かつ論理的に物事を勘案し、未知の課題を想像する能力を育成します。

専門科目

- 専門知識を体系的に学び、アイデアを検討し具現化するための技術の修得を促します。
- 他者の背景を理解し協創を促すため、他分野の専門知識を学修する機会を設けます。

プロジェクト科目

- 共通科目と専門科目の学修によって身に付けた能力を発揮する機会として、研究による実践型教育を実施します。

学修成果の評価

- 知識や技術の理解度・習熟度、能力の達成度などの学修成果を、試験や課題に対する成果、ルーブリック、それらの組み合わせなどによって評価します。
- 単位制を採用し、学修・教育到達目標と各授業科目の達成目標に対して、学修成果が一定のレベルに達した際に単位を付与します。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/design/>)

(概要)

デザイン工学部は、現実の課題発見と解決のみならず、未知の課題を想像し、新たなアイデアを提案することで、より良い社会を追求できる人材の育成に取り組みます。そのために建学の精神、デザイン工学部の教育・研究の方針と内容をよく理解し、大学が求める人物像に加え、以下に当てはまる人物を求めます。

デザイン工学部が求める人物像

- デザイン工学部での学修・研究を強く志望し、関連する教育分野の基礎学力を身に付けた人
- 社会へ貢献する意欲と、旺盛な好奇心を追求できる人
- 新たなアイデアをデジタル技術で実現することに興味を持ち、積極的に新たな分野を学ぶことに躊躇しない人
- 自分とは異なる考えを持つ人々と協働し、失敗を恐れることなく挑戦してきた人

上記に賛同し、本学への入学を志望する人は、高等学校等において以下能力等を身に付けておくことが望まれます。

<p>(1) 高等学校等の課程で学ぶ知識・技能（特に外国語、数学、理科）</p> <p>(2) 思考力・判断力・表現力等の能力</p> <p>(3) 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度</p> <p>本学部においては、上記の能力等を総合・多面的に評価するため、以下の入学者選抜を実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般入学者選抜の前期・後期・全学統一日程入試では、(1)を重視するとともに、筆記試験、外部試験により(2)を評価します。 ・一般選抜の大学入学共通テスト利用方式では、多科目の成績により(1)及び(2)を評価します。 ・総合型選抜では、記述試験や外部検定試験等により(1)及び(2)を評価し、面接や口頭試問などにより(1)及び(2)、(3)を総合的に評価します。 ・学校推薦型選抜では、調査書で(1)及び(2)を評価し、面接で(1)及び(2)、(3)を総合的に評価します。

<p>学部等名 建築学部</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：https://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/architecture/)</p>
<p>(概要)</p> <p>建築学部は、これからの時代に建築を「いかにつくるか」だけでなく「何のためにつくるか」を重視します。そのために、自然科学や人文社会科学なども含んだ学際的視点を持ち、持続可能な社会における豊かな建築や都市空間を創造する力を持った人材を育てます。また、多様な価値観が共存する 21 世紀の世界に適応できる、建築をベースにした特色ある人材を育てます。具体的には、卒業までに以下に挙げる能力を持った人材を養成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.歴史的発展を踏まえてさまざまな側面を理解し、現代の建築の技術的・社会的問題点を理解することができる 2.人々の生命や財産に深く関連する建築に、技術者や設計者としてたずさわるための倫理観を身につける 3.普遍的法則である科学に関する基礎知識を身につけ、なおかつ建築設計や建築技術に関する幅広い専門知識を身につける 4.それらの幅広い知識を統合、駆使し、建築や都市をめぐる現在の課題に対して自らの役割や責任を認識しつつ、解決に導くことができる 5.豊富なコミュニケーション能力を使って他者や他集団とのあいだに適切な社会関係を築くことができ、さらにそれを踏まえて 21 世紀のグローバル社会で活躍できる
<p>卒業又は修了の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/architecture/)</p>
<p>(概要)</p> <p>建築学部は、自然科学や人文社会科学を含んだ学際的視点を持ち、豊かな建築・都市空間の創造により社会に貢献できる能力、また、多様な価値観が共存する 21 世紀の世界に適応できる能力を有し、卒業要件を満たしたものに学位を授与します。</p> <p>(学修・教育目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歴史的発展を踏まえて建築を捉え、現代の建築を取り巻く技術的・社会的問題を理解できる。 2. 自然・社会・人間に深く関わる建築に、専門家としてたずさわるための高い倫理観を身につけている。 3. 自然科学や人文社会科学に関する基礎知識と、建築設計や建築技術に関する幅広い専門知識を身につけている。 4. 世界と社会の多様性を認識し、高いコミュニケーション能力を持ち、21 世紀のグローバル社会で活躍できる国際感覚とチームで仕事ができる能力を身につけている。

5. 豊富な教養と幅広い知識を統合・駆使し、建築や都市をめぐる現代的課題を解決できる。
6. 課題の発見・解決のために、建築に関わる広範な知識・技術を自ら進んで探求し、理解しようとする姿勢を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/architecture/>)

(概要)

●建築学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、これからの時代に建築を「いかにつくるか」だけでなく「何のためにつくるか」を重視します。そのため、建築の専門科目に加えて多様な基礎・教養科目によってカリキュラムを構成し教育を行います。

●専門科目が建築学の専門性を高めるための科目であるのに対し、基礎・教養科目は自然科学の一般法則の知識とその運用方法、基本的な外国語・コミュニケーション能力、社会・文化に関する教養などを身につけるための科目です。

また、「建築デザイン」、「工学」、「幅広い教養」の融合を実現するため、専門性の高い科目と基礎・教養科目の横断的な学修を促し、各科目間の相乗効果を生むようカリキュラムを設計しています。これらの教育課程編成方針に基づき、以下の科目構成により授業を実施します。

1. 専門科目では建築設計や建築技術に関する幅広い専門知識と倫理観を身につけることを狙いとした科目を配置しています。
2. 基礎・教養科目では、数学・理科・英語のほか、幅広い分野を持つ人文社会系科目を中心に構成し、年次を通じて履修可能とすることで専門教育との横断的融合を実現します。
3. 講義科目で学んだ知識を演習・実習科目で実践することで理解を深めていくことを基本としますが、実社会や現場の体験から得られる視点やコミュニケーション能力も重視しています。そのため、国内外でのプロジェクト型実習科目も豊富に配置しています。

●上記の各授業科目においては知識の伝達のみならず、学生同士や教員との双方向のやり取りを通じて専門知識の深化とコミュニケーション能力の向上を図ります。なお、建築学部では学生が無理のない学修計画を立てられるよう、年間に履修できる科目数に制限を設けています。

●各授業科目に評価方法・評価基準を設定し、学修成果を多面的に評価し、学生の振り返りを促すことにより、建築学部の学修・教育到達目標を達成します。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/architecture/>)

(概要)

建築学部は、豊かな感性と技術力を身につけた高い志を持つ建築の専門家を養成します。本学部への入学を志望する受験生は、以下に挙げる「求める人物像」及び本学部の教育方針、カリキュラム、教育・研究の内容をよく理解して出願することが望まれます。

(建築学部が求める人物像)

1. 建築・都市におけるさまざまな課題に対して積極的な興味・関心を持つ人
2. 本学部での学修、研究を強く志望し、自らの意思と行動力を持って人々の暮らしを支え喜びをもたらす建築を生み出すことに、情熱を持つ人
3. 建築をベースに、社会や時代・環境の変化を見据え、多様な価値観を受け入れ、場所・地域・国を問わずに活躍することを志向する人

上記に賛同し、本学部への入学を志望する人は、大学が求める人物像に加え、高等学校等において、以下の能力を身につけていることが望まれます。

- (1) 科学的な思考・判断をするための基礎学力（特に数学・物理・化学・英語）
- (2) 論理的な思考にもとづく、判断力、読解力、表現力
- (3) 建築・都市を取り巻く社会や文化について、その歴史をふまえて理解するための基礎的知識
- (4) 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度
- (5) 独自の視点により空間や思考を表現する能力

上記の能力を多面的・総合的に評価するため、建築学部のアドミッション・ポリシーを指針とした入学者選抜を実施します。

・一般入学者選抜の前期・後期・全学統一日程入試では、(1)を重視するとともに、筆記試験、外部試験により(2)を評価します。

・一般選抜の大学入学共通テスト利用方式では、多科目の成績により(1)及び(2)を評価します。

・総合型選抜では、調査書および外部検定試験などにより(1)及び(2)を評価し、自己推薦書および実技試験、面接で(1)～(5)を総合的に評価します。

・学校推薦型入学者選抜では、調査書で(1)及び(2)を評価し、面接で(1)～(5)を総合的に評価します。

・特別入学者選抜では、基礎学力調査、外部検定試験、筆記試験等により(1)及び(2)を評価し、提出書類、面接により(1)～(3)を総合的に評価します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.shibaura-it.ac.jp/about/info/faculty_number.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	4人	－					4人
工学部	－	116人	40人	0人	4人	0人	160人
デザイン工学部	－	18人	4人	0人	0人	0人	22人
システム理工学部	－	59人	17人	0人	1人	0人	77人
建築学部	－	28人	5人	1人	0人	0人	34人
大学院	－	0人	1人	0人	0人	0人	1人
附置研究所	－	6人	3人	0人	7人	0人	16人
その他	－	6人	0人	0人	0人	0人	6人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員				計	
0人		475人				475人	
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： http://resea.shibaura-it.ac.jp/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
全教職員を対象としたFD講演会を年2回程度開催している他、入職後3年以内の教員を対象とした新任教員研修プログラムを行なっている。この新任教育研修プログラムは、日本高等教育開発協会（JAED）による認証を受けている。また、理工学教育共同利用拠点としてFDプログラムを年30件程度開催しており、希望者は参加することができる。							

--

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
工学部	975人	1,132人	116.1%	3,900人	4,213人	108.0%	-人	-人
システム 理工学部	485人	494人	101.9%	1,940人	1,979人	102.0%	-人	-人
デザイン 工学部	160人	182人	113.8%	640人	707人	110.5%	-人	-人
建築学部	240人	247人	102.9%	960人	1,042人	108.5%	-人	-人
合計	1,860人	2,055人	110.5%	7,440人	7,941人	106.7%	-人	-人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
工学部	962人 (100%)	465人 (48.3%)	481人 (50.0%)	16人 (1.7%)
システム 理工学部	476人 (100%)	239人 (50.2%)	224人 (47.1%)	13人 (2.7%)
デザイン 工学部	158人 (100%)	57人 (36.1%)	97人 (61.4%)	4人 (2.5%)
建築学部	240人 (100%)	138人 (57.5%)	100人 (41.7%)	2人 (0.8%)
合計	1,836人 (100%)	899人 (49.0%)	902人 (49.1%)	35人 (1.9%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
就職先：三菱電機(株)、本田技研工業(株)、大和ハウス工業(株)他				
進学先：芝浦工業大学大学院、東京科学大学大学院、東京大学大学院他				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
工学部	1,019人 (100%)	876人 (86.0%)	110人 (10.8%)	33人 (3.2%)	人 (%)
システム 理工学部	491人 (100%)	432人 (88.0%)	31人 (6.3%)	28人 (5.7%)	人 (%)

デザイン 工学部	168人 (100%)	152人 (90.5%)	9人 (5.4%)	7人 (4.2%)	人 (%)
建築学部	256人 (100%)	224人 (87.5%)	26人 (10.2%)	6人 (2.3%)	人 (%)
合計	1,934人 (100%)	1,684人 (87.1%)	176人 (9.1%)	74人 (3.8%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>全授業科目において、授業科目の授業概要・目的・達成目標・授業計画・授業時間外課題・評価方法と基準を記載した授業計画（シラバス）を作成し、公表している。</p> <p>シラバスを作成する際には、全授業担当教員向けに、シラバスの役割、作成時のポイント、大学設置基準に基づくシラバス項目の解説を掲載した「シラバスガイド」を配付している。全授業科目担当教員はこの「シラバスガイド」に記載された基準に基づき、各自で作成している。</p> <p>シラバス作成後は、専門学科および共通科目において、全学統一のシラバスチェックリストに基づき、全科目について第三者チェックを実施している。</p> <p>「シラバスガイド URL」</p> <p>http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/docs/syllabusguide.pdf</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>「学修の成果に係る評価及び卒業の認定にあたっては、客観性及び厳格性を保持するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに当該基準に従って適切に行うものとする。」と学則に定め、具体的な成績評価の方法、基準をシラバスに明示し、その基準どおりに学修成果の評価を行い、単位の授与を行っている。</p> <p>履修及び授業科目修了認定にあたっては、本学所定の授業科目に対する課程を修了し正規の試験等に合格した学生には、その授業科目所定の単位を与える。</p> <p>各授業科目の1単位は45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学習等を考慮して、単位数を計算すると定め、適正に実施している。</p>				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
工学部	全学科	124単位	有	年間49、半期25単位
システム理工学部	全学科	124単位	有	年間49、半期25単位
デザイン工学部	デザイン工学科	124単位	有	年間49、半期24単位
建築学部	建築学科	124単位	有	年間48、半期25単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法： https://www.shibaura-it.ac.jp/campus_life/class/class.html		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法： https://www.shibaura-it.ac.jp/headline/award.html		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法： 豊洲キャンパス https://www.shibaura-it.ac.jp/about/facility/toyosu_campus.html 大宮キャンパス https://www.shibaura-it.ac.jp/about/facility/omiya_campus.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
全学部 1年次	全学科	1,199,000 円	280,000 円	283,000 円	
全学部 2年次		1,199,000 円	円	283,000 円	
全学部 3・4年次		1,299,000 円	円	283,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 【工学部】学生の日頃の学習や試験に向けた学習をサポートするため「学習サポート室」を設置している。学習サポート室では、数学、物理学、化学、英語について学習サポート室担当教員が個別指導を行い学習のサポートを行っている。長期休暇時には補習授業も実施している。 【システム理工学部】日頃の学習支援のため学習相談コーナーを設けている。「よろず相談コーナー」では卒業生の大学院生が学習相談員として待機し、大宮キャンパスでの対面・オンラインの両方で学部生の学習相談に応じている。 【デザイン工学部】大宮キャンパス学生会館 2F「デザイン工学部学習サポート室」を中心に、大宮・豊洲の両キャンパスの教室、オンラインにて、英語・数学・物理に関する様々なサポート活動を行っている。 【建築学部】数学、物理、英語について「学習サポート室」を開設し、担当教員が個別指導を行い、学生のサポートを行っている。講義での不明点や学習方法についての相談を受け付けている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 入学時から学生一人ひとりの仕事観を育成し、学びの指針となるように支援している。1、2年次には低学年向け業界セミナーや工場見学を開催。これまで知らなかった仕事や世界を知るきっかけを作っている。3年次には学科(専門分野)・留学生に適したガイダンスを実施。さらに各種就職講座の開講や、合同企業説明会、工場見学など、将来を見通したキャリア支援を行い、ミスマッチのない就職活動を後押ししている。内定後には資格取得の推奨や社会人マナーの修得などをフォローするなど、入学から卒業まで一貫した支援に力を入れている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) ＜保健室での主な取り組み＞学生の保健保持促進、健康管理、感染症対応、疾病予防および急病、体調不良、怪我の応急処置、健康についての不安や悩みのある学生からの相談対応や指導を行っている。

＜学生相談室での主な取り組み＞学生生活を送る上での悩み、迷い、不安などの心理相談に、臨床心理士・公認心理師の資格を有するカウンセラーが対応している。また、精神科校医との面談も受け付ける。必要に応じて学外の相談機関および医療機関を紹介し、医師と連携して支援を行っている。相談希望者向けにオンライン申込フォームおよび予約専用ダイヤルを設置しているほか、夜間や夏休み・春休みなどの閉室時でもカウンセリングが受けられるよう学外の相談サービスとも利用契約を締結している。

＜予防教育の提供＞保健室では睡眠や栄養に関する啓発動画を作成し、学生向けに公開している。学生相談室ではメンタルヘルス講義を学部1年生向けに実施しているほか、全学生に対するK6を利用した精神衛生状況の調査を年度初めに実施し、高得点（＝高ストレス）と判定された学生に対して学生相談利用の働きかけを行っている。

＜障害のある学生（身体・精神）に対する合理的配慮と支援＞保健室と学生相談室によって配慮内容の合意形成と通知の作成、合理的配慮申請に関わる相談に対応している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<http://resea.shibaura-it.ac.jp/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F113310103046
学校名 (〇〇大学 等)	芝浦工業大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人芝浦工業大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		852人（ 27 ）人	880人（ 35 ）人	880人（ 35 ）人
内 訳	第Ⅰ区分	395人	398人	
	（うち多子世帯）	（ - 人）	（ - 人）	
	第Ⅱ区分	176人	177人	
	（うち多子世帯）	（ - 人）	（ - 人）	
	第Ⅲ区分	105人	109人	
	（うち多子世帯）	（ - 人）	（ - 人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	84人	96人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	27人	35人	
区分外（多子世帯）	0人	0人		
家計急変による 支援対象者（年間）				3人（ - ）人
合計（年間）				883人（ 35 ）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	9人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 <small>（単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が廃止の基準に該当）</small>	1人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	4人	人	人
計	14人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間	0人
前半期	人
後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	1人
3月以上の停学	0人
年間計	1人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
GPA等が下位4分の1	18人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が警告の基準に該当)	1人	人	人
GPA等が下位4分の1	75人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	76人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。